

目次

(1) 事業報告

- 南河内地域・河南町コミュニティ通訳ボランティア研修を開催しました
 - 平成24年度大阪府海外短期建築・芸術研修生招聘事業が無事終了しました
 - 防災体験バスツアー実施(大阪府国際交流財団との共催事業)
- ### (2) グローバル人材の育成特集
- グローバル人材の育成
 - OFIXの国際理解教育外国人サポーター派遣事業

(3) JICAからのお知らせ

- 国際協力ひろば ナマステ・インド ～インドで「つむぐ」国際協力～
- ### (4) 大阪府堺留学生会館オリオン寮生投稿コーナー
- 日本人の若者の言葉使い
- ### (5) 外国人情報コーナー
- 高度人材ポイント制度
- ### (6) OFIX国際交流員のレポート
- 文化と国籍を超えて

折り込み記事 日本も元気にする青年海外協力隊

(1) 事業報告

■ 南河内地域・河南町コミュニティ通訳ボランティア研修を開催しました

河南町あるいは南河内地域に住んでいる外国人の方に対して、行政・学校などでのコミュニケーションの橋渡しをする、コミュニティ通訳者の養成を目的とする研修を、10月10・12日の二日間に渡り、河南町役場にて行いました。

5言語、計15名のボランティア通訳者が参加され、コミュニティ通訳として活動するための心構えやケーススタディの他、通訳現場で必要とされる知識を深めるため、在留資格、行政窓口、教育などについて、それぞれの専門家にご講義をいただきました。また、プロの通訳者の方から通訳スキルのトレーニング方法についてご教授いただき、研修の最後には、学校での保護者面談や、進路相談を想定したロールプレイを

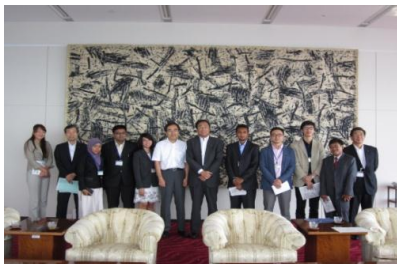
行いました。

研修後のアンケートでは、「これを機会にもっと勉強したい」「知らないことを色々と学べてよかった」との声が寄せられ、有意義な研修になりました。今後も多くの方に、コミュニティ通訳と知識や技術を提供していき、たくさんの方に活躍して頂くことで、外国人の暮らしやすい地域づくりを推進していきたいと思います。

なお、11月からはとんだばやし国際交流協会にて、コミュニティ通訳ボランティア研修を行いますので、南河内地域での活動にご興味のある方は、是非ご参加ください。

■ 平成24年度大阪府海外短期建築・芸術研修生招聘事業が無事終了しました

今年で20回目を迎える大阪府海外短期建築・芸術研修生招聘事業も10月16日の研修生の帰国を持ち無事に終了することができました。



(大阪府庁表敬訪問の様子)

当事業は大阪府出身の世界的建築家安藤忠雄氏からの寄付金と、当事業の趣旨に賛同された企業の方の協賛金をもとにOFIXが毎年実施しており、建築、芸術

を専門とする若者を本年度はアジアの8カ国から8名研修生とし9月19日より約一カ月間大阪に招聘いたしました。日本の建築、芸術を学ぶ機会をもち、日本文化への理解を深め、母国の建築、芸術の発展へ寄与することを目的としています。

10日間に及ぶ企業研修では、最新技術の紹介、建設現場

視察、また熱心で勤勉な職場環境に大きな感銘を受け、大阪府庁および安藤忠雄建築研究所への表敬訪問では一生の思い出となる素晴らしい機会を得ました。また企業研修の他にも、「持続可能な地球環境における建築の再



(安藤忠雄建築研究所表敬訪問の様子)

建と保存」また「再生と防災」のプレゼンテーション、日本の大学生やホストファミリーとの交流、また京都や安藤氏設計建築物をまわり、一日として無駄のない充実した研修となりました。ご協力頂きました皆様に厚くお礼申し上げます。

研修の詳細については、次号でお伝えします。

■ 防災体験バスツアー実施（大阪府国際交流財団との共催事業） 河内長野市国際交流協会事務局長 板東 可奈子

河内長野市国際交流協会では、地域住民とのコミュニティ作りも兼ねた外国人向け防災訓練をH22年度から始めており、この度、大阪府国際交流財団と共催で、外国人7カ国、18人、日本人11人の参加を得て、10月7日に阿倍野防災センターで、地震を知らない外国人に揺れなどを体験してもらう、防災体験バスツアーを実施しました。今後30年以内の発生が危惧されている南海地震の震度7を体感した時に

は、身体を支えるバーを握っていても恐怖を感じました。遊園地の乗り物のようにしゃぐ外国人もいましたが、実際にこのような大地震が発生した場合、どう対処すべきかをシュミレーションするうちに真顔になっていく自分がいました。昼食は、避難場所での食事をイメージし、おにぎり、菓子パン、ペットボトル飲料のみ。分け合って食べると連帯感が生まれ、和気藹々と大阪歴史博物館に向かいました。

(2) グローバル人材の育成特集

■ グローバル人材の育成

大阪府では、昨年3月、大阪の国際競争力を強化するため、「大阪府国際化戦略」を策定しました。この戦略に基づき、大阪府と公益財団法人大阪府国際交流財団は共同で「大阪府国際化戦略アクションプログラム」を策定するとともに、これを実施する組織として大阪府国際化戦略実行委員会を設置し、世界で活躍できる「グローバル人材の育成」に取り組んでいるところです。

ところで、「グローバル人材」とはどのような人材なのでしょう。グローバル人材の定義については、一様に決まったものはありませんが、経済や社会、文化などあらゆる面で世界がつながるグローバル時代において、世界の人々から尊敬と友好の気持ちを集めながら、持続的な豊かさを享受していくためには、単に優れた語学力を持つだけでなく、豊かな教養と幅広い視野を持ち、世界の人々との信頼関係を構築し、強いリーダーシップを発揮できる人物が求められるといえるでしょう。このようなグローバル人材が世界中で活躍し、日本をけん引していくことは、これからの日本の発展にとって避けては通れないことです。アクションプログラムでは、こうした「グローバル人材の育成」の重要性に着目し、大阪から世界で活躍するグローバル人材を育て、大阪ひいては日本の活力を高めることを目的として、今年度「おおさかグローバル塾」及び「グローバル体験プログラム」の

大阪府国際化戦略実行委員会事務局 事務局長 志村 和哉

両事業を展開しています。

「おおさかグローバル塾」では、若者の海外留学をサポートする目的で、4月から12月まで、留学に関する準備講座と短期留学を米英2コースで実施しています。将来、海外で学び、働きたいという強い希望を持つ高校生を約100名募集し、留学に必要な様々な知識を学んでいます。とりわけ約2週間の短期留学で実際に海外の大学や企業を訪問し、たくさんの人との交流を体験したことは、自分の進路を考える上で大きなヒントとなったようです。

（詳細はOFIX ニュース第50号おおさかグローバルレターVOL.1をご覧ください。）

また、「グローバル体験プログラム」では、英語を使って日本にいながら海外のコミュニケーションを体験することのできるメニュー等を用意しています。海外に関心を持つきっかけづくりとして、高校の授業で活用されており、すでに計画を上回る約2,000名の参加申込が集まっています。

これらの事業に加え、実行委員会では今年度中に留学・海外研修助成の制度化も検討しているところです。今後とも多角的な事業の取組みにより、大阪から多くのグローバル人材を輩出していく予定です。

■ OFIX の国際理解教育外国人サポーター派遣事業

グローバル化の進展に伴って、日本に住む外国人が増えていきます。法務省の統計によると全国には200万人以上の外国人がいます。大阪に住む外国人は20万人に上ります。そして、大阪府の国際化戦略の実行によって、大阪に来る外国人はさらに増えるでしょう。それで、様々な国の文化と接することになります。外国人に日本の文化を理解してもらうだけ

だけではなく、日本人も多文化共生社会のために外国の文化を理解する必要があります。そのため、OFIXでは、公益財団法人大遊協国際交流・援助・研究協会と協力して、国際理解教育外国人サポーター派遣事業を



行っています。

この事業は、小・中・高等学校や国際交流団体などから依

頼を受けた時にOFIXに登録している外国人サポーターを派遣して、自分の母国の文化などについて発表してもらいます。

外国人サポーターは大遊協国際交流・援助・研究協会の奨学生と大阪府に住む外国人で構成され、現在、20カ国、40人以上の外国人が登録されています。

24年4月から9月末までの派遣実績は21件で、その詳細は以下のとおりです。

団体・機関	依頼件数	派遣した外国人	対象者数
小学校	8	20	748
中学校	1	4	120
高等学校	9	9	782
その他団体	3	4	90
合計	21	37	1740

外国人サポーター登録は随時にしていますので、興味のある方はOFIXまでご連絡ください。

OFIX 国際理解教育外国人サポーター派遣事業担当
E-mail : info@ofix.or.jp

(3) JICAからのお知らせ

■ 国際協力ひろば ナマステ・インド ～インドで「つむぐ」国際協力～

今年は、日本とインドの国交樹立60周年。それを記念し、今回の国際協力ひろばのテーマは、今めざましい経済の発展ぶりや注目を浴びている暑い!? 熱い!? インド。そんなインドは木綿の生産大国でもあり、その木綿を糸につむぐための糸車は独立運動のシンボルにもなりました。その糸車になぞらえ、インドで「つむぐ」国際協力のカタチをお届けします。映画・フェアトレードやファッションを通じて、開発途上国とあなたを「つむぐ」つながりを実感してみませんか。

日時：2012年11月3日（土曜日）・11日（日曜日）

13時30分から16時30分まで

会場：大阪国際交流センター（i-house）

主催：JICA 関西・（公財）大阪国際交流センター

参加費：無料※事前申し込み必要

お問い合わせ先：

（公財）大阪国際交流センター 情報企画部

TEL. (06)6773-8182

FAX. (06)6773-8421

【11月3日】

・映画上映『スラムドッグミリオネア』

・講演「『スラムドッグミリオネア』にみるインド」

在大阪・神戸インド総領事館

ヴィカース・スワループ総領事

【11月11日】

・講演：「みんなでつながる、未来にやさしいお買い物」

～インドでつむぐピースバイピースコットンプロジェクト～

株式会社フェリシモ PEACEBYPEACE

コットンプロジェクト 葛西龍也氏

・関西の学生団体によるフェアトレードファッションショー

(4) 大阪府堺留学生会館オリオン寮生投稿コーナー

ラオスからの留学生でオリオン寮生のチャンピソンミド・パカムさんは、在籍するホスピタリティツーリズム専門学校の代表として、6月2日大分県で開催された「外国人による日本語弁論大会」に参加し、『日本人の若者の「やばい」言葉使い』というテーマでスピーチを行い、見事、文部科学大臣賞を受賞されました。その喜びを投稿してもらいました。

■ 日本人の若者の言葉使い

チャンピソンミド・パカム

ある言語の上達のために一番大切なことはその言語を好きになることだと私は思います。好きなことならどんなに難しくても自然に学び続けられるからです。日本の合気道や空手道に興味を持って2010年来日し、一年間日本語を勉強した後、現在の専門学校でホテルの勉強をしています。この学校に入学して初めて日本人の若者と一緒に授業を受けました。最初はドキドキしてみんなが何を話しているのかはあまり分からなかった。「話をする人」より「話を聞く人」になりました。その中で特に気になったのはみんながよく使う「やばい」という言葉です。この言葉はどんなときにも使えるようですが「いったいこの言葉の意味はなんだろう。」日本人の大人たちと交流する中でこの「やばい」は二つの意味があり、良いときにも悪いときにも使われていることが分かりました。その時偶然に学校での日本語の授業の中で毎年行われている日本語弁論大会に参加して「日本人の若者の“やばい”言葉使い」というスピーチが誕生しました。このスピーチにより日本語の面白さが分かってきただけでなく、私は日本語の美しさを守ると共に外国語に対する尊敬や外国語の勉強の面白さも分かり、さらに第53回外国人による日本語弁論大会で多くの人々に伝えることができたと嬉しかったです。

このような誇りの高い弁論大会に出場でき、文部科学大臣賞をいただいたのは本当に先生たちのおかげです。最初の応

募のためのビデオレコードをしてくれた先生、スピーチの練習を聞いてくれた先生、寮の管理人さん、担任の先生や出会った日本人の大人たち、そして「やばい」を使っている若くてかわいい友達に感謝します。特に私たち留学生を担当する先生に深く感謝します。本番でとても緊張するはずでしたが、思ったほど緊張しなかったのはたぶん先生が私より緊張してくれたからかもしれませんね。この大会を通じて他



の外国人の友達のスピーチは自分にとってもいい勉強になりましたし、スピーチが行われた別府市の魅力や人々

の暖かい歓迎に感銘を受けてもっと日本のことが好きになりました。長く日本にいと日本と恋に落ちないといられないですね。これからも大学へ進学する夢を実現していき、合気道の黒い帯を得られるまでに様々なことにチャレンジしていきたいと思っています。一緒に、日本、頑張ろう！

